

<p>教育学・心理学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 移民社会の学校教育の課題と対応</p> <p>□ 多様な文化に対応できる教師の育成</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 比較教育学 ■ 移民社会の学校教育 ■ 多文化教育 ■ 多文化教師教育 ■ カナダの教育 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多文化時代の子どもへの教育と教師教育 <p>グローバル化が進む現在、諸外国と同様に、日本社会も多文化化に関わる大きな変化を経験しています。日本各地の学校には、外国にルーツを持つ子どもなどの多様な言語・文化・生育歴・家庭環境の子どもが在籍するようになっていきます。それに伴い学力格差、差別・いじめ、中途退学、不登校といった学校教育における様々な課題が指摘されています。</p> <p>私の研究課題は、移民や外国人労働者の受入れにより多文化社会を形成してきた諸外国(特にカナダ)における学校教育及び教師教育の実践と課題を考察し、今後ますますの社会の多文化化が予想される日本の学校教育への示唆となる理念や実践について検討することです。私の研究では、専門分野である比較教育学の手法を用いて、諸外国の教育事象との比較考察を行い、国際的視野から日本の教育の特性を客観的に把握し、再検討することを目指しています。具体的には、以下の二つについて研究を進めています。</p>
	<p>【1】移民社会の学校教育の課題と対応</p> <p>カナダ、アメリカ、オーストラリアなどの移民社会である諸外国の学校教育が、どのような課題に直面し、どのような理念に基づいて課題に対応しようとしているかについて考察する。</p>
<p>児玉 奈々 Nana Kodama</p>	<p>【2】多様な文化に対応できる教師の育成</p> <p>移民社会であるアメリカ及びカナダの多文化教師教育理論や教員養成機関や現職研修の取り組みを参考に、日本の学校において多様な文化的背景を持つ子どものニーズに対応し、教育活動を進めることができる教師の育成を目的とする教員養成・研修プログラムの開発を進めている(科学研究費基盤研究(C)「多文化共生教育のための意識改革を促す教師教育プログラム開発:北米の実践の考察から」(児玉奈々研究代表)2022年4月~2026年3月)。</p>
<p>教育学部 教授</p>	<p>現在の研究課題に関する主な研究業績は、以下の通りです。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門分野 ・比較教育学 ・教育社会学 ●略歴 ・1997年 早稲田大学教育学部卒業 ・2000年 早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了 ・2002~2004年 日本学術振興会特別研究員 ・2003年 早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程修了 博士(教育学) ・2004年 鹿児島純心女子大学国際人間学部 専任講師 ・2008年 滋賀大学国際センター 准教授 ・2016年 滋賀大学国際センター 教授 ・2019年 滋賀大学教育学部 教授 ・2019~2020年 カナダ・ヨーク大学客員研究員 ・2023年 文部科学省統計調査協力者外国調査アドバイザー 	<ul style="list-style-type: none"> ・児玉奈々「カナダ・オンタリオ州の教員養成プログラムにおける多文化教師教育の実施状況—授業科目とフィールドスタディの接続に着目して—」『滋賀大学教育学部紀要』第72号、2023年、67-79頁。 ・児玉奈々「文化的多様性を前提とし活かした教育の実現に向けて—北米の文化に関連する教育理論を参考に—」『滋賀大学教育学部紀要』第71号、2022年、207-216頁。 ・児玉奈々「カナダの文化的・言語的マイノリティの子どもと学校教育」『教育と医学』68巻3号、2020年、236-242頁。 ・児玉奈々「教科教育における文化に関連する教育(culturally relevant education)理論—日本における文化的多様性を前提とした教科教育の展望—」『滋賀大学教育学部紀要』第68号、2018年、115-127頁。 ・児玉奈々「海外留学による多様性に対応できる教員の養成—カナダの教員養成系大学の海外教育実習の考察を通して—」『滋賀大学教育学部紀要』第65号、2016年、159-172頁。 ・Nana Kodama (2015). Teacher education and culturally diverse classrooms: A comparative analysis of Japan and Ontario, Canada. In: R. DePalma, D. B. Napier, & W. Dze-Ngwa (Eds.). Revitalizing Minority Voices: Language Issues in the New Millennium (pp.91-110). Rotterdam: Sense Publisher
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●所属学会 ・カナダ教育学会 ・日本比較教育学会 ・日本カナダ学会 ・日本教育学会 ・Comparative and International Education Society in Canada 	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>外国人児童生徒等の多様な文化を持つ子どもの教育に関わる施策に取り組んでいる自治体と、私の研究成果や諸外国の移民の子どもの学校教育に関わる情報を共有させていただきます。</p> <p>外国にルーツを持つ子どもとその教育に関わる教員研修の実施も可能です。</p>
<p>【連絡先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●E-mail アドレス nana@edu.shiga-u.ac.jp 	